

脱炭素社会の実現に向けた新たな取組みについて

企業局では、経営環境が厳しさを増し急速に社会変革が進展する中で、今年3月に「山形県企業局経営戦略」（計画期間 H30～R9）の後期5年間の見直しを行い、GX（グリーン転換）やDX（デジタル転換）などの「社会変革の波」に的確に対応しつつ「事業価値を更に向上」させるための新たな視点を加味しました。

これを受け、GXへの対応として、今年度新たに2つの取組みを展開します。

1 グリーン水素等の新たなエネルギーの可能性研究

- 電気事業における再生可能エネルギー100%の電力の価値を最大限に活用し、CO₂フリーの新たなエネルギーの可能性を探るため、グリーン水素やe-fuelといわれる合成燃料[※]等の製造と活用に関する調査研究に着手する。

（R4年度は最新動向等の情報収集を実施）

- 新たな技術革新の動向を見据えながら、各分野の知見を持った民間企業との共同事業や外部資金の活用についても検討する。
- 新たな知見を積み上げ、関係部局と連携しながら、県内産業の振興に資する具体的なプロジェクト展開の可能性を探る。

※合成燃料(e-fuel):大気中のCO₂(二酸化炭素)と再生可能エネルギーによる水電解で得られたH₂(水素)を合成して製造される燃料。

2 浄水場における脱炭素化の推進

- 「ゼロカーボンやまがた2050」の達成に向けた「事業者」の取組みとして、企業局においても脱炭素化の取組みを進めることとし、その第一歩として、今年度から「工業用水道事業」の脱炭素化に向けた検討に着手する。
- 工業用水道の浄水場で使用する電力を再生可能エネルギー由来へ転換する具体的な手法の調査・研究を行い、3箇所ある工業用水道の浄水場の脱炭素化の段階的な実現を目指す。
- これにより、企業局自らの脱炭素化はもとより、受水企業の脱炭素化にも寄与することにつなげたい。